

■米国：アリゾナ州の電力協同組合、州最大の蓄電池計画を発表

2019年11月15日付の業界紙によると、アリゾナ州の Salt River Project (SRP) 協同組合は2019年11月14日、アリゾナ州で過去最大の蓄電池を設置する二つの計画を発表した。いずれも太陽光と蓄電池を組み合わせる構成であり、一つ目は太陽光(25万kW)と蓄電池(25万kW/100万kWh)の組み合わせ、二つ目は太陽光(8万8,000kW)と蓄電池の組み合わせである。いずれも2023年6月に運転開始予定であり、NextEra Energy Resources 社の子会社が所有、運用する計画である。SRPは2025年までに再エネを大量導入する目標(100万kW)を掲げており、今回の計画でその6割以上が達成される。SRPはアリゾナ州の Navajo 石炭火力発電所(225万kW)の主な所有者であるが、この発表の2日前の11月12日に Navajo 火力の廃止を発表していた。